

# 花き類圃場周辺の雑草における ミカンキイロアザミウマの発生消長

静岡県農業試験場 片山晴喜

## はじめに

ミカンキイロアザミウマは1970～80年代に薬剤抵抗性を発達させるとともに、急速に世界中に発生地域を拡大した (PARRELLA, 1995)。我が国では、1990年に千葉および埼玉県の花き類圃場で初めて発生が確認され (早瀬・福田, 1991)、92年以降全国的に分布が拡大した。本種は花に対する嗜好が強いことが特徴であるが、花以外にも芽、葉、果実を加害し、果菜類、果樹類および花き類と多種類の作物において被害が報告されている (片山, 1998; 増井, 1998)。静岡県では、1992年に浜名湖東岸地区の花き類生産地において本種が多発生し、キクやガーベラなどの花き類を中心に著しい被害を引き起こした。

本種は寄主範囲が広く、アメリカ合衆国では周辺植生における発生が圃場内の発生に影響することが指摘されている (CHELLEMI et al., 1994)。そこで、浜名湖東岸地区の花き類生産地において、圃場周辺の雑草における本種の発生状況を調査した。

## I 越冬生雑草における露地越冬

片山・池田 (1995) は静岡県浜松市のキク親株圃場において、秋から翌春の発生状況を調査し、本種の成幼虫は冬季にもキクの芽に生息することを確認した。また、圃場周辺で開花中のノボロギクおよびホトケノザにおいて、本種成虫が1～3月に生息することも確認された (図-1)。このほかに2月中旬から3月中旬にはハコベ、オランダミミナグサ、ヒメムカシヨモギからも本種成虫が確認された。この調査において、キク親株および雑草に共通してアザミウマ類の中で本種の比率が高かったこと、3月中旬に幼虫が急増することが観察された。同属の在来種であるヒラズハナアザミウマは、短日条件下で生殖休眠した雌成虫が落葉下で越冬する (村井, 1988)。また、侵入種であるミナミキイロアザミウマは休眠性を

もたず、九州南部以北では露地越冬できない (河本ら, 1984)。このような越冬生態の差異が、キク圃場周囲の越冬生植物で本種が優占種となる要因と推測される。また、本種は短日条件下でも休眠しないため (ISHIDA et al., 2003)、越冬生植物上で産卵や発育を行っていることが推測される。1月1日を起点として三角法 (坂神・是永, 1981) により、卵の有効積算温度 50 日度を上回るのは1993年では3月8日、94年では3月21日と算出された。このことから、3月中旬の幼虫の増加は年内に産出された卵がふ化したものと推測される。なお、越冬地に設置した青色粘着トラップの誘殺消長から、4月中旬に分散が確認された。したがって、越冬生雑草はキク親株と同様に本種の越冬場所および春先の増殖場所であり、遅くとも2月末までに、できれば12月に除草を完了する必要があると考えられる。

## II 圃場周辺の雑草の開花とミカンキイロアザミウマの生息

冬季に圃場周辺の雑草で生息していることが確認されたことから、春以降の圃場周辺の雑草における生息状況を把握するため、4～11月まで月に2回、開花中の主要雑草を調査した (KATAYAMA, 2006)。表-1は、雑草から採集されたアザミウマ類に占めるミカンキイロアザミ

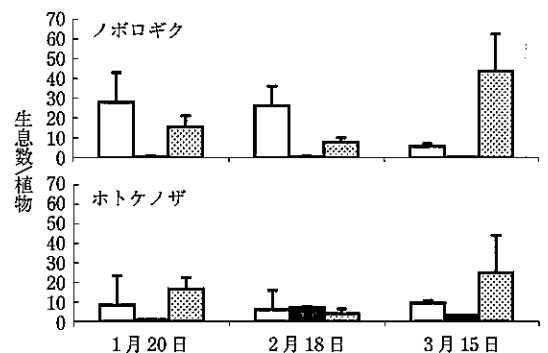


図-1 キク圃場周辺の雑草地のノボロギクおよびホトケノザにおける冬季のアザミウマ類の生息状況 (静岡県浜松市, 1994年)。

□ : ミカンキイロアザミウマ成虫, ■ : その他成虫, ▨ : アザミウマ類幼虫。垂線は標準誤差を示す。

Seasonal Prevalence of the Occurrence of Western Flower Thrips *Frankliniella occidentalis* on Weed Hosts Growing around Ornamental Fields. By Haruki KATAYAMA

(キーワード: ミカンキイロアザミウマ, 寄主植物, 雑草, 発生消長)